

【 杵 築 市 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

	全体	学習指導要領の内容				
		言葉の特徴や 使い方に 関する 事項	情報の扱い方 に関する 事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと
杵築市	61	70.1	57.5	65.5	38.8	64.4
大分県	63	69.9	53.6	66.9	45.4	68.5
全国	60.9	66.8	52.3	65.8	45.7	65.9

◇全13問（選択式9問・短答式2問・記述式2問）であり、教科全体では全国平均を0.1ポイント上回った。短答・記述式問題形式については全国正答率58.8%であるのに対して杵築市61.7%と全国平均を上回っている。

□「言葉の特徴や使い方にに関する事項」領域の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」（知識・技能）は全国平均を6.7ポイント上回っている。

□「情報の扱い方に関する事項」領域の「情報と情報との関係について理解する」（知識・技能）は全国平均を10.3ポイント上回っている。

■「書くこと」領域は全国平均を6.9ポイント下回っており、中でも「文章全体の構成や展開を考える」（思考・判断・表現）は全国平均を10.2ポイント下回っている。

■「読むこと」領域は全国平均を1.5ポイント下回っており、中でも「目的に応じて必要な情報を見つけることができる」（思考・判断・表現）は全国平均を4.9ポイント下回っている。

■正答数3問以下（正答率20%未満）の割合は全国値より高い。（市：9.1% 全国：8.8%）

□短答式・記述式問題における無回答率は全国値より低い。短答式で1.9ポイント、記述式で3.7ポイント無回答率が低く、自分の考えを持って粘り強く取り組んでいる。また、全13問中8問で無回答率が全国値より低かった。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- ① 「漢字を文の中で正しく使う」ことについては、国語辞典や漢字辞典を活用して意味を調べたり同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れ、タブレット（AIドリルや漢字アプリ等）で既習の漢字を繰り返し学習し習得を図った結果、良好な結果を得られた。今後も継続して漢字の持つ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付ける。言語能力の育成は必須であり、読書活動の推進も図っていく。
- ② 「書くこと」については、自分の考えを言語化する活動を取り入れ、根拠をもとに説明させる等、表現させる学習を積み重ねてきた。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するためには、引用する部分を選んだ意図や目的について交流し、また、原文を正確に引用することや引用した部分と自分の考えとの関係を明確にするなど、話し合いの質の向上を図っていく。
- ③ 「読むこと」については、書き手の述べたいことを知るために読む、読み手の知りたいことを調べるために読むなどの目的に応じて、文章の中から必要な情報を取捨選択する等、意図をもって読む指導が必要である。
- ④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組み、定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

	全体	学習指導要領の領域				
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
杵築市	57	61.9	53.3	78.9	39.2	49.0
大分県	58	62.3	56.5	77.9	39.1	50.6
全国	56.4	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6

◇全16問（選択式5問・短答式8問・記述式3問）であり、教科全体では全国平均を0.6ポイント上回った。特に、記述式で全国正答率48.5%に対して杵築市53.1%と全国平均を4.6ポイント上回った。

□「数と計算」領域の「異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する」（思考・判断・表現）は全国平均を10.9ポイント上回っている。

□「データの活用」領域の「集計の誤りのある項目を見つけ、根拠を表の中の数と言葉を用いて説明する」（思考・判断・表現）は全国平均を7.2ポイント上回っている。

■「図形」の領域は全国平均を2.0ポイント下回っており、中でも「直方体の箱の形を構成する面について理解する」（知識・技能）は全国平均を7.0ポイント下回っている。

■「変化と関係」の領域は全国平均を1.9ポイント下回った。中でも「百分率で表された割合と比較量から、基準量を求める」（知識・技能）は全国平均を4.0ポイント下回っている。

□正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国値より低い。（市：8% 全国：10.1%）

□短答式・記述式問題における無回答率は全国値より低い。短答式で0.3ポイント、記述式で0.1ポイント無回答率が低く、また、全16問中10問で無回答率が全国値より低かった。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- ① 「数と計算」、「データの活用」については「問題場面を図や式に表す」ための指導の充実や、「グループでの話し合い活動」に継続して取り組んできたことが効果的であったと考える。引き続き校内研究等により指導の工夫を図っていく。
- ② 「図形」領域では、立方体の体積の計算による求め方について理解できている。半面、直方体は3種類の長方形が2組で構成されていることへの理解が不十分であったと考えられる。図形領域では、紙の箱を実際に分解させたり、1人1台端末や、大型提示装置を有効活用し、視覚的に図形の関係を捉えさせたりするなどして指導していく。
- ③ 「変化と関係」領域では、基準量、比較量、割合の数量の関係を把握することや、百分率を用いた表し方の理解に課題があると考えられる。（基準量）×（割合）＝（比較量）などの言葉の式だけでなく、数直線などの図を用いて、児童が自ら基準量、比較量、割合を書き込み、それらの数量の関係を捉えることができるように指導することが大切である。
- ④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組む。また、関連する領域について学習する際に既習事項の復習を行うことにより定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

	全体	学習指導要領の内容				
		言葉の特徴や使い 方に関する事項	情報の扱い方に 関する事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと
杵築市	65	59.0	70.7	66.3	73.8	65.2
大分県	64	62.3	68.3	64.1	67.0	60.0
全国	63.9	63.0	70.4	63.9	67.4	59.7

◇全15問（選択式9問・短答式3問・記述式3問）であり、教科全体では全国平均を1.1ポイント上回った。問題形式については、選択式、短答式、記述式のいずれも全国平均を上回っている。中でも記述式問題については全国正答率45.5%であるのに対して杵築市52.7%であった。

□「話すこと・聞くこと」領域の「必要に応じて質問しながら話の内容を捉える」（思考・判断・表現）は全国平均を8.3ポイント上回っている。

□「読むこと」領域の「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする」（思考・判断・表現）は全国平均を8.4ポイント上回っている。

■「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域は全国平均を4.0ポイント下回っており、中でも「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える」（知識・技能）で全国平均を4.9ポイント、「単語の種別について理解している」（知識・技能）で全国平均を9.0ポイント下回っている。

□正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国値より低い。（市：3.7% 全国：5.0%）

□14問中11問で、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率0%が7問であった。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- ① 短答式・記述式問題については、各学校の授業改善による思考ツールの活用や、学び合いの場の設定が効果的であったと考えられる。今後も継続して取り組んでいく。
- ② 「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、自立語と付属語を類別することはできているが、助詞と助動詞を類別すること、及び語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題があると考えられる。単語の類別については、日常の言語活動の中で使用されている例を取り上げ、生徒が実感をもって理解できるように指導すること、また、語句の文脈上の意味を正確に捉えるためには、辞書を活用して語句の意味や使い方に対する認識を深めることが大切である。
- ③ 「書くこと」領域においては、自分の考えを言語化する活動を取り入れ、根拠をもとに説明させる等、表現させる学習を積み重ねてきた。その際に、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう引き続き指導する必要がある。
- ④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み、定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

	全体	学習指導要領の領域			
		数と式	図形	関数	データの活用
杵築市	58	67.4	43.7	57.4	59.2
大分県	55	65.4	43.5	55.2	52.8
全国	57.0	67.8	48.7	54.8	53.5

◇全16問（選択式3問・短答式9問・記述式4問）であり、教科全体では全国平均を1.0ポイント上回った。問題形式については、選択式、短答式、記述式のいずれも全国平均を上回っている。

□「関数」領域の「反比例の関係を表す表の特徴を捉えてXの値に対応するYの値を求める」（知識・技能）は全国平均を6.7ポイント上回っている。

□「データの活用」領域の「累積度数の域を理解している」（知識・技能）は全国平均を11.2ポイント上回っている。

■「数と式」領域は全国平均を0.4ポイント下回っており、中でも「正の数と負の数を用いて変化や状況を表す」（知識・技能）では全国平均を7.1ポイント下回っている。

■「図形」領域は全国平均を5.0ポイント下回っており、中でも「筋道立てて考え、証明することができる」（思考・判断・表現）では全国平均を9.2ポイント下回っている。

■正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国値より高い。（市：15.0% 全国：13.9%）

□16問中13問で、無解答率が全国値より低い。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

- ① 「データの活用」については、データを読み取った上で、事柄が成り立つ理由を考える活動（ペア・グループ活動）が効果的であったと考えられる。引き続き1人1台端末や、大型提示装置を有効活用し指導していく。
- ② 「数と式」については、最高気温5℃と最低気温-4℃の気温差を「1℃」と回答した誤りが多かった。正の数と負の数を用いた計算は必須であり、過去の振り返りを扱いながら指導していく。
- ③ 「図形」については、角度を捉えることについてはできているものの、筋道立てて考え、証明することに課題があると考えられる。生徒が証明を回答した後に、振り返る活動を取り入れ、その際に、筋道立てて説明できているか、根拠は明確であるか、記号や用語の使い方は適切であるか等の視点で、証明を評価・改善できるよう指導することが必要である。
- ④ 上記の改善方策や1人1台端末の活用を取り入れた授業について、校内研究会や杵築市教育課程研究協議会の授業研究会において公開し、多くの教員が参観することによって、どの学校でも全ての生徒が考え表現する授業を実施できることを目指していく。
- ⑤ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組む。また、関連する領域について学習する際に既習事項の復習を行うことにより定着を図っていく。

【 杵 築 市 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

1 調査結果の分析

中学校：英語

	全体 IRTスコア	領域別の正答率		
		聞くこと	読むこと	書くこと
杵築市	490	57.1	60.0	41.4
大分県	484	59.0	57.5	39.8
全国	499	62.8	60.0	43.1

◇公開問題全16問（選択式10問・短答式/口述式2問・記述式/口述式4問）であり、教科全体では全国平均IRTスコアを9ポイント下回った。

□短答式/口述式問題では全国正答率55.8%に対して杵築市57.5%と、全国平均を上回っている。

■「聞くこと」領域全体では、全国値を5.7ポイント下回った。中でも、共通公開問題「社会的な話題について話を聞き、要点を捉える」（思考・判断・表現）では、全国値を11.5ポイント下回っている。

■「書くこと」領域全体では、全国値を1.7ポイント下回った。中でも共通公開問題「社会的な話題について短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く」（思考・判断・表現）では全国値を5.3ポイント下回った。

□正答率25%以下の生徒の割合が全国と比較し0.4ポイント低い。

□公開問題16問中12問で、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率0%が7問であった。

2 具体的な改善方策

中学校：英語

- ① 「聞くこと」の領域について、情報を聞き取ることができるようにするためには、授業の中で、聞くことを通して理解する活動を繰り返し行うことが重要である。教師や友人の話す英語を聞く活動や、ALTやALTコーディネーターの有効活用による学習活動を継続し、聞き取った要点をペアやグループで伝え合ったり、学級全体で確認したりする活動が必要である。
- ② 「読むこと」領域で、文章の概要を捉えさせるには、個人では気づかない視点を得るために、生徒同士で検討するペア・グループ活動の場面を設定する。その際、1人1台端末や、大型提示装置を有効活用する。
- ③ 「書くこと」領域で、正確に書くことができるようにするためには、既習の文法事項などを適切に使い分けて表現することが重要である。本市生徒の英語愛好度は全国値より高く、表現活動にも意欲的であることから、自分の考えや調べたことを英語で書く言語活動を継続的・計画的に取り入れる。その上で、基本的な語や文法事項等を理解して文章を書くことができるよう指導する。
- ④ 小中の教員が参加する授業研究会により、小学校の英語教育の学びを中学校につなげることが大切である。
- ⑤ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み、定着を図る。

【 杵 築 市 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

※数値は「そのとおりだと思う・どちらかといえば、そう思う」等の肯定的回答の集計（％）

<基本的生活習慣等>

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
1	朝食を毎日食べていますか	92.4↑	93.3	-0.9
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	80.6↓	82.8	-2.2
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.8↑	90.7	+0.9
4	普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，スマートフォンや携帯電話，パソコン，タブレット，ゲーム機，テレビ等（以下，「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（2時間以上の割合）	57.0↑ R6:34.9	57.6	-0.6

<自己有用感，規範意識等>

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
8	自分には，よいところがあると思いますか	84.1↓	85.6	-1.5
9	先生は，あなたのよい所を認めてくれていると思いますか	91.8↑	91.4	+0.4
10	将来の夢や目標を持っていますか	79.4↓	83.1	-2.4
12	いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.3↓	96.2	-0.9
15	学校に行くのは楽しいと思いますか	90.0↑	85.7	+4.3
16	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	77.1↓	77.9	-0.8

<学習習慣等>

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
23	学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（1時間以上の割合）	50.1↓	49.9	+0.2
25	土曜日や日曜日など学校が休みの日に，1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（1時間以上の割合）	43.5↓	39.0	+4.5

＜ICT を活用した学習状況＞

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
24	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く） ※1 時間以上の割合	11.8 ↓	13.5	-1.7
35	5 年生までに受けた授業で、P C・タブレットなどの I C T 機器を、どの程度使用しましたか（週 3 回以上）	42.3 ↓	68.8	-26.5

＜地域や社会に関わる活動の状況等＞

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	84.1 ↓	80.1	+4.0

＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況＞

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
38	5 年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	65.3 ↓	66.4	-1.1
39	5 年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	75.9 ↓	77.6	-0.7
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	84.7 ↑	78.4	+6.3

＜学習に対する興味・関心や授業の理解度等＞

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
53	国語の勉強は好きですか	62.4 ↑	57.4	+5.0
54	国語の授業の内容はよく分かりますか	89.4 ↑	81.5	+7.9
国 2	回答時間は十分でしたか（国語）	68.9	68.6	+0.3
61	算数の勉強は好きですか	59.4 ↓	57.6	+1.8
62	算数の授業の内容はよく分かりますか	79.8 ↓	78.3	+1.5
算 2	回答時間は十分でしたか（算数）	82.0	86.0	-4.0
70	英語の勉強は好きですか	81.1	66.7	+14.4

↑は前年と比較し増 ↓は前年と比較し減 →は前年と同じ

生徒質問紙

※数値は「そのとおりだと思う・どちらかといえば、そう思う」等の肯定的回答の集計（％）

<基本的生活習慣等>

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
1	朝食を毎日食べていますか	92.5↓	90.9	+1.6
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	82.4→	80.5	+1.9
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	96.8↑	92.4	+4.4
4	普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，スマートフォンや携帯電話，パソコン，タブレット，ゲーム機，テレビ等（以下，「スマートフォン等」）で SNS や動画視聴などをしますか（２時間以上の割合）	61.7 R6:45.3	74.9	-13.2

<自己有用感，規範意識等>

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
8	自分には，よいところがあると思いますか	83.5↓	84.0	-0.5
9	先生は，あなたのよい所を認めてくれていると思いますか	93.1↑	90.9	+2.2
10	将来の夢や目標を持っていますか	65.4↓	67.6	-2.2
12	いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.3↓	95.1	+1.2
15	学校に行くのは楽しいと思いますか	88.3↓	85.4	+2.9
16	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	81.9↑	78.6	+3.3

<学習習慣等>

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
23	学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（１時間以上の割合）	62.8↓	61.6	+1.2
25	土曜日や日曜日など学校が休みの日に，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（１時間以上の割合）	68.7↓	52.5	+16.2

<ICT を活用した学習状況>

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
24	学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，PC・タブレットなどの ICT 機器を，勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く） ※１時間以上の割合	13.3↓	12.0	+1.3
35	１・２年生の時受けた授業で，PC・タブレットなどの ICT 機器を，どの程度使用しましたか（週３回以上）	87.7↑	78.2	+9.5

＜地域や社会に関わる活動の状況等＞

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	76.0 ↓	72.3	+3.7

＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況＞

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
38	1・2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	63.3 ↑	65.5	-2.2
39	1・2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	80.9 ↑	78.8	+2.1
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	83.5 ↑	79.0	+4.5

＜学習に対する興味・関心や授業の理解度等＞

番号	質 問 事 項	杵築市	全国	市と国の差
53	国語の勉強は好きですか	70.7 ↑	57.2	+13.5
46	国語の授業の内容はよく分かりますか	86.7 ↑	76.8	+9.9
国 2	回答時間は十分でしたか（国語）	68.0	75.7	-7.7
61	数学の勉強は好きですか	51.0 ↑	56.1	-5.1
62	数学の授業の内容はよく分かりますか	74.0 ↑	74.2	-0.2
数 2	回答時間は十分でしたか（数学）	88.2	87.8	+0.4
70	英語の勉強は好きですか	43.6	39.5	+4.1
71	英語の授業の内容はよく分かりますか	62.2	64.1	-1.9

↑は前年と比較し増 ↓は前年と比較し減 →は前年と同じ

2 杵築市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

「自立した学習者の育成」に向けて

(小・中学校共通)

○基本的生活習慣等の確立を図る。

- ・家庭と学校で連携した基本的な生活習慣の確立。
- ・スマートフォン等の使い方について児童生徒、保護者への啓発。

○児童生徒の学習意欲の向上を図る。

- ・自己肯定感や規範意識、教科愛好度の維持向上。
- ・教師が教える場面と子どもが考える場面を明確にした単元構成。
- ・低学力層の児童生徒への支援の工夫による基礎・基本のさらなる定着。
- ・発達段階に応じた自主学習・家庭学習の取組の推進及び家庭学習の点検による進路指導計画に沿った指導・助言の充実。
- ・根拠を持って自分の考えを説明する話し合い活動の推進。
- ・ICT 機器の日常学習への定着と、効果的な活用及びタイピング能力の向上。
- ・板書の構造化と、書く活動の機会の保障。

○地域や社会への興味・関心を深める。

- ・将来の夢や目標を持つことにつなげる地域教材や地域人材を活用したキャリア教育の充実。

○安心できる学校生活の構築と自尊意識の向上を図る。

- ・違う考えが受け入れられる心理的安全性の確保。
- ・生徒指導の3機能を生かした授業づくり。
- ・人間関係づくりプログラムの充実による日常生活の絆づくり。

(小学校)

- ・子どもたちが見通しを持って学び、「できる」「わかる」「楽しい」と感じ、学習したことが生活に役立つことを実感できるような授業の創造。
- ・対話し、考えを広げたり深めたりする学習を通して他者と協働して得た意見を踏まえた「振り返り」の充実。
- ・学校と家庭とが連携した家庭学習の取組の推進。
- ・「集会」や「ふるさと発見学習」を設定。めあて・実行・振り返りのサイクルを大切にして知恵を出し合いながらの取組を図る。

(中学校)

- ・教科の特性に応じたノート（ワークシート）づくりや「まとめ・振り返り」の日常化及び教科部会で検証改善する取組の推進。
- ・聞いたことや学んだことをアウトプットする力の育成。
- ・自分の考えを発表し他者と広げたり、深めたりする学習場面の設定。
- ・「職業講話」「職場体験学習」「上級学校調べ」を中心としたキャリア教育の推進。

【 杵 築 市 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

※数値は「そのとおりだと思う・どちらかといえば、そう思う」等の肯定的回答の集計（％）（ ）は全国の数値

小学校：学校質問紙

<自己有用感，達成感等>

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
8	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	88.9 (83.9)
32	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれの良さを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	88.8 (95.2)
41	調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	100 (94.9)
42	調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今努力すべきことを学級の話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか	88.9 (93.7)

<学校運営／教職員の資質能力の向上に関する取組状況に関する取組状況>

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
16	I C Tを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか	100 (99.6)
17	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを確立していますか	100 (97.3)
18	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100 (97.8)

＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況＞

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
26	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	100 (88.1)
34	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	88.9 (88.1)

＜ＩＣＴを活用した学習に関する取組状況＞

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
60	前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のＩＣＴ機器を活用した授業を１クラス当たりどの程度行いましたか（週３回以上の割合）	88.9 (94.2)
69	ＩＣＴ機器やインターネットの利活用について、目的や場面に応じた適切な使い方や、利活用にあたってのルールやマナーに関する指導を行いましたか（よく行った割合）	77.8 (54.8)

＜家庭や地域との連携等＞

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
79	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	100 (89.1)

＜家庭学習＞

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
81	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	100 (96.6)
83	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	100 (90.5)

中学校：学校質問紙

<自己有用感，達成感等>

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
8	調査対象学年の生徒は，授業中の私語が少なく，落ち着いていると思いますか	100 (90.7)
32	調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，学習指導において，生徒が，それぞれの良さを生かしながら，他者と情報交換して話し合ったり，異なる視点から考えたり，協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	100 (94.6)
41	調査対象学年の生徒に対して，学級生活をよりよくするために，学級活動で話し合い，互いの意見の良さを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	100 (93.5)
42	調査対象学年の生徒に対して，学級活動の授業を通して，今努力すべきことを学級の話し合いを生かして，一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか	100 (91.9)

<学校運営／教職員の資質能力の向上に関する取組状況に関する取組状況>

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
16	I C Tを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか	100 (99.3)
17	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを確立していますか	100 (95.9)
18	指導計画の作成に当たっては，教育内容と，教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100 (93.7)

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
26	調査対象学年の生徒は，授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組むことができていると思いますか	100 (87.2)
34	調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	33.3 (86.1)

< I C Tを活用した学習に関する取組状況>

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
68	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたP C・タブレットなどのI C T機器を、授業でどの程度活用しましたか（週3回以上の割合）	100 (93.6)
58	I C T機器やインターネットの利活用について、目的や場面に応じた適切な使い方や、利活用にあたってのルールやマナーに関する指導を行いましたか（よく行った割合）	66.7 (52.1)

<家庭や地域との連携等>

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
87	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	100 (84.4)

<家庭学習>

番号	質 問 事 項	学校質問紙回答
89	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	100 (91.2)
91	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしましたか	100 (83.2)

2 杵築市の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 市内小中学校の児童生徒は、概ね落ち着いた生活を送ることができている。学習環境や学習規律、児童生徒の情報交換等について、各学校で組織的な取組をさら進め、引き続き、児童生徒が安心して学習や生活を行うことができる校内体制づくりに取り組む。
- 各学校において、学力や生活についての課題を共有し、組織的な取組が行われている。各学校の「学校評価の4点セット」による検証改善サイクルにより成果と課題を明らかにしながら、校長のリーダーシップのもと、学校運営及び組織全体で行う教職員の資質向上に関する取組を今後も推進していく。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善の推進に向け、日々の授業において、「新大分スタンダード R8 改訂版」を意識した単元構想による「楽しくて力の付く授業づくり」に向けた、実践的な研修に取り組む。また、授業力向上アドバイザーを効果的に活用し、教師が教える場面と子どもが考える場面を明確にした単元構想を支援する等、引き続き授業改善を推進する。
- 小学校と中学校の連携については、教務主任会議で中学校区ごとにめざす児童生徒像や、育成を目指す資質・能力を共有したり、生徒指導主任会で中学校区ごとに課題を共有したりしている。また、英語専科教員による公開授業への参加を校種を超えて積極的に参加する等、小中連携の取組を推進する。
- 家庭学習については、学校と家庭が連携し、児童生徒の主体的な家庭学習の充実を図る取組が進められている。対象学年の児童生徒に対する家庭学習指導が効果的であったと考えられる。本市が目指す自立した学習者の育成に向け、今後も家庭学習についての指導が効果的に進められるよう、児童生徒の実態に応じた家庭学習の取組を継続していく。
- 学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有するため学校運営協議会において熟議の場を設定し、課題の解決に向けて協働する。
- ICT 機器の効果的活用と同時に、書く活動機会を保障する等、リアルとデジタルを適切に組み合わせた学習を推進する。また、ICT 機器やインターネットの利活用について、目的や場面に応じた適切な使い方や、利活用にあたってのルールやマナーに関する指導を引き続き行う必要がある。